

# 第9回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず<企画シート作成上の注意>をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ) フクオカダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) ダザイ ゼミ
福岡大学	商学部	太宰 ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ) チーム ダザイ	フリガナ) オカタニ アツシ	5
チーム 太宰	岡谷 淳史	

## 研究テーマ（発表タイトル）

Google analytics を教える講義 ～意義と効果について～

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

我々の最大の目的は GoogleAnalytics（以下 GA）を学生にわかりやすく教えていくことである。そのために GA を全く知らない学生に講義を行うという形をとり、最終的にはアクセス分析に関する学生の敷居を下げ、web のアクセス解析をより身近なものにするためのアイデアの提示とそれを講義で実践していく。また企業を訪問して、企業が学生に求めている能力を把握し、学生たちに伝えていくことにより、アクセス解析の重要性を知ってもらうことである。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

10年間の日本における広告費の現状として紙媒体のものが下がり続けており、ネットの広告費が上がり続けている。どのような企業でもインターネットを利用した施策が必要不可欠である。そこで GA の活用である。2017年時点で GA を導入している上場企業は約8割と非常に多いことがわかっている。無料で使えて非常に強力なツールである。どこから流入してきたか、どの広告から飛んできたのか、どのキャンペーンが効いたのか、など細かくサイトの分析することができる。地域ごとに効果を測定し、さらに年代ごとにも分析ができるというものである。学生への意識調査のアンケート結果より GA に関する学生の認知度は2割程度しかないことがわかっている。学生たちは Excel の関数なども使える人も少なく IT リテラシーが低いことも現状として挙げられる。またセミナーなどに参加して web コンサルを行う企業や広告代理店へのヒアリングで東京、大阪に比べて、福岡企業のアクセス解析なども遅れているという結果が明らかになった。また大学側の現状として、福岡大学には情報系の講義があるが web アクセス解析の講義はない。他の様々な大学にも情報系の学部、データを扱う学部が増えているが、アクセス解析について詳しく教えている講義はないことが分かっている。

### 3. 研究テーマの課題

上記の結果から、企業の方が活用できていなくかつどんな企業にも必要とされる能力の一つとして、web のアクセス解析が挙げられる。しかしアクセス解析に対する知識を十分に持っている学生はほとんどいない。また、GA は企業向けのツールであり、学生が個人で学習することはなかなか難しいということである。Google は GA について様々なサービスを用意している。その中のアナリティクスアカデミーというものが用意されているが、英語のみしかなく字幕で複数の言語に対応している。しかし学生が英語で聞き

ながらなおかつ初めて聞く専門用語を理解していくのは、やや難易度が高い。学生が学ぶ価値はあるが、敷居が高い。そこで、学生に学ぶ敷居を低くするために、講義という形で学生へアプローチすることとなった。講義であれば、初心者向けに内容を考えていくので学ぶ敷居は低くなると考えられる。

アンケート結果から学生は Instagram のインサイト、Twitter のアクセシビリティ等の機能を使用していることが分かっており、学生も意識の範囲外でアクセス解析に触れていて、アクセス解析の素地があることが分かった。しかし学生は GA となると 7 割の人が知らないという課題が存在している。そのような学生に、GA を学んでもらうことでデータ分析の様々な面も認識してもらおう。企業側の視点からの課題点は、現在の企業に必須ともいえるアクセス解析は、自社サイトを所持している企業でさえも、アクセス解析に関する知識がない場合もあり、その分野の専門家に依頼することもあることが課題として挙げられる。

#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記のことを解決していく手段の一つとして、学生のうちにアクセス解析に触れ、少しでも web に対するリテラシーを持つことが挙げられる。その中の解決策の一つとして、Google が教材の一つとして提供している Google Merchandise Store のアクセス状況を見ることができるデモアカウントの活用である。これは Google のアカウントを持っている人ならば誰でも無料で使えるサービスである。これで実践しながら学んでいく。デモアカウントの活用を講義の骨組みとする。その際、最大の壁となるのが、専門用語を理解することである。GA には専門用語が多く馴染みがない言葉もあり、なかなか理解が難しいものである。そこでもう一つの解決策として、専門用語を使わずに学んでもらう工夫を考えた。用語自体を講義中にほかの言葉に置き換え説明するというアイデアを講義中に用い、その効果についてアンケートを取る。どれだけ講義が面白かったか、ほかの言葉に置き換えて説明することがわかりやすかったかなどについて測定する。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

活動内容

- 1、講義の際に我々が用語をイラストを使って分かりやすく学生たちに説明
- 2、企業へ訪問して我々が考えた分析方法でリアルなデータを分析させていただき、企業の課題解決のための提案
- 3、Google アナリティクスアカデミー <https://analytics.google.com/analytics/academy/>
- 4、企業へのヒアリング 6社
- 5、学生へ意識調査のアンケート（Google フォーム）2018/7/20
- 6、GA を使った講義を受けてくれた生徒へのアンケート（Google フォーム）2018/11/01

#### 6. 結果や今後の取り組み

GA の講義を受けてくれた生徒へのアンケート結果から約 9 割の学生が講義を面白いと答えてくれた。さらに我々が考えたイラストを用いた専門用語の説明について 8 割以上の学生たちがわかりやすかったと回答してくれている。web の重要性も十分に学生に伝えることができた。講義の難易度を難しいと感じている学生は多かったが、講義を約二か月しか受けていない学生でも、デモアカウントを使って、Direct からのユーザーのコンバージョン率が最も高いことから、ブックマークを登録している人はヘビーユーザーが多いのではないかという仮説を立てることもできた。このようにアンケートや学生に実際に聞いた声から、講義で web のアクセス解析を教える意義は十分あることが明らかになっている。

今後の取り組みとして二つを考えている。一つは私たちが実際に行った企業のアクセス解析を講義にも取り入れて、より高度で実践的なものにしていくことである。二つ目はこの講義の評価が高ければ、他大学でもアクセス解析の講義が開講されることが予想されるので、大学間で蓄積した知識や経験を共有できるようになることを目標としている。

#### 7. 参考文献

日経テレコン 2016/01/27 日経産業新聞

<https://datasign.jp/blog/datasign-report-201708/>

できる逆引き Google アナリティクス 増補改訂 2 版 Web 解析の現場で使える実践ワザ 260 Google タグマネージャ/オプティマ

イズ/データスタジオ対応 (できる逆引きシリーズ) 木田和廣 (著) 2017/11/17

わかばちゃんと学ぶ Google アナリティクス (アクセス解析・Web マーケティング入門) 湊川あい(著) 2018/3/27

Google アナリティクスのやさしい教科書。手を動かしながら学ぶアクセス解析の基本と実践ポイント 山野勉(著) 2017/10/31

Google アナリティクス 実践 Web サイト分析入門 ユニバーサルアナリティクス対応 Web 担当者が身につけておくべき新・100の法則。いちしま泰樹(著)2014/1/24

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

スライドページ 30

●発表時に使用する成果物 (例、商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート)

**【企画シート作成上の注意】 ※「第9回 西日本インカレ(合同研究会) 大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。**

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただきます場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。